

中学校第3学年社会科学学習指導案

期 日：令和5年12月18日

時 間：第3校時

対 象：第3学年B組26名

学校名：清心中学校

授業者：大前 吉史

1 単元（題材）名

「 これからの経済と社会 」

2 単元（題材）の目標

- (1) 公害の防止など環境の保全について、その意義を理解することができるようにする。
- (2) 対立と合意、効率と公正などに着目して、市場の働きに委ねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たす役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現することができるようにする。
- (3) 国民の生活と政府の役割について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を育てる。

3 単元（題材）の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
公害の防止など環境の保全について、その意義を理解している。 豊かさの基準にどのようなものがあるか理解している。 地域が抱える課題や対応策について理解している。	これからの社会に必要な豊かさについて考察している。 対立と合意、効率と公正などに着目し、市場の働きに委ねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たす役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	国民の生活と政府の役割について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとしている。（態度）

4 指導観

(1)単元（題材）観

本単元では、日本の公害問題や地球環境問題、少子高齢化に伴う人口減少が与える地域社会への影響をとりあげる。公害の防止など環境保全、社会資本の整備などの市場に委ねることが難しい問題について、地方公共団体が果たす役割について、多面的・多角的に考察し、表現できるようにすることなどを主なねらいとしている。

具体的には、教科書で取り扱われているコンパクトシティの取り組みを取り上げたい。富山市での先進的な取り組みと地元のまちで行われている取り組みを題材に生徒に考えさせたい。

(2)教材観

教科書に掲載されている統計資料等を活用し、「豊かさ」について理解する。さらに、グループワークではコンパクトシティに関する映像や倉敷市第7次総合計画などを活用し、地方公共団体の役割と持続可能なまちづくりについて考察を行う。

(3)生徒観

中学3年生全体として社会授業に真面目に取り組むことができる。B組にはグループワークが苦手な生徒もいるが、協力して取り組むことができる。

5 単元（題材）の指導計画と評価計画（全2時間扱い）

時	★目標 ○学習内容	■評価規準（評価方法）
第1時	<p>★環境保全と経済成長の両立のためになされている取り組みについて理解する。</p> <p>循環型社会を実現し、環境を保全するためにどうすべきか、持続可能性の観点から、自分事として考察し、表現する。</p>	<p>■四大公害病の経緯や地球環境問題、それらを防止するための住民や国、地方公共団体、企業の取り組みについて、具体的な事例を通して理解している。（知技）</p> <p>■循環型社会を実現し、環境を保全するためにどうすべきか、持続可能性の観点から、自分事として考察し、表現している。（思判表）</p>
	<p>○1 公害の防止と環境の保全（p.170～171）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公害の発生 ・公害対策の進展 ・新たな公害と地球環境問題 ・循環型社会に向けて 	
第2時（本時）	<p>★経済的な豊かさの基準にどのようなものがあるか理解する。</p> <p>持続可能な社会を創るために、経済はどのような役割を果たすべきか、豊かさに着目して多面的・多角的に考察、構想し、議論する。</p> <p>対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目し、市場の働きに委ねることが難しい諸問題に関して国や地方公共団体が果たす役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。</p> <p>国民の生活と政府の役割について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとする</p>	<p>■豊かさの基準にどのようなものがあるか理解している。（知技）</p> <p>■これからの社会に必要な豊かさについて考察している。（思判表）</p> <p>■対立と合意、効率と公正などに着目し、市場の働きに委ねることが難しい諸問題に関して、地方公共団体が果たす役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。（思判表）</p> <p>■国民の生活と政府の役割について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとしている。（態度）</p>
	<p>○2 経済の持続可能性と真の豊かさ（p.172～173）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済成長と豊かさ ・地域の持続可能な発展 	

6 指導に当たって

(1) 論理的思考（ロジカル・シンキング）

持続可能なまちづくりにおける行政の役割について、論理的に説明することができる。

(2) 批判的思考（クリティカル・シンキング）

身近な地域の課題を解決する政策であるコンパクトシティの考え方（都市の中心にある市街地や鉄道などの駅がある地域に、住宅地や病院、図書館などの社会資本を集め、効率的に利用する考え方）について良い点・良くない点を考え、多角的多面的に持続可能なまちづくりについて考察する。

(3)水平思考（ラテラル・シンキング）

コンパクトシティの取り組みを通して、今後の持続可能なまちづくりのありかたについて考察する。

7 本時（全2時間中の2時間目）

(1)本時の目標

- ・豊かさの基準にどのようなものがあるか理解する。
- ・持続可能な社会を創るために、対立と合意、効率と公正などに着目し、市場の働きに委ねることが難しい諸問題に関して、地方公共団体が果たす役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。
- ・国民の生活と政府の役割について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとする。

(2)本時の展開

時間	○学習内容 ・学習活動	・指導上の留意点	■評価規準（評価方法）
導入 (5分)	○「豊かさ」という言葉から連想することを各自で考える。	・時間配分に気をつける	■積極的に考えているか。(主体的)
展開 (35分)	<p>(1) 経済成長と豊かさ</p> <p>○「豊かさの基準」について、「一人当たり GDP」、「より良い暮らし指標」、教科書の記述を示し、多様な基準があることを理解する。</p> <p>(2) 地域の持続的発展</p> <p>○日本が直面している大きな課題である急速な人口減少が地域社会にもたらす影響を理解する。</p> <p>○課題解決のための対応策としての「コンパクトシティ」という考え方の良い点・良くない点を考える。</p> <p>グループで考えを述べ、今後この政策を進めていくべきかを話し合う。</p> <p>○班としてどのようなことが話し合われたかまとめる。</p>	<p>・人口減少が地域にもたらす影響について既習事項の確認を行う。</p> <p>・富山市のコンパクトシティ政策の映像を視聴する。</p> <p>・倉敷市第7次総合計画に記載されている政策について触れる。</p> <p>・コンパクトシティが「豊かさ」をもたらすかを意識させる。</p>	<p>■豊かさの基準についてどのようなものがあるか理解しているか。(知識・技能)</p> <p>■これからの社会に必要な豊かさについて考察している。(思判表)</p> <p>■対立と合意、効率などに着目し、市場の働きに委ねることが難しい諸問題に関して、地方公共団体が果たす役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。(思判表)</p>
まとめ (10分)	○各班でどのような話し合いがあったか、まとめた内容を発表する。	<p>・時間の関係でいくつかの班に発表させる。</p> <p>・</p>	■国民の生活と政府の役割について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に社会に関わろうとしている。(態度)